

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－ ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎
公演団体名	めばえ寄席「〇〇亭」 ※〇〇は公募により決定。

内容



めばえ寄席「〇〇亭」
ワークショップ

プログラム

出演者4名〔落語家2名（ニツ目・前座）、寄席囃子三味線奏者1名、寄席文字書家（橘流）1名〕
 時間：45～90分《授業時間、児童・生徒さんの状況により調整いたします》

ワークショップの構成要素

知って、感じて、やってみる

知って「解説」、感じて「体験」、やってみる「創作」をキーワードに構成。
 全ては寄席をより楽しんでもらうために。

- 解説：寄席や落語から始まり、江戸の暮らしまで
- 体験：落語のしぐさや、寄席文字の書き方
- 創作：小ばなしや寄席文字を用いたポスター作成のコツを伝授

※プロジェクター（映像）を使用いたしますので、視覚的にも分かりやすい

“みんなで作る「めばえ寄席」”

1. 公演タイトル（〇〇亭）を決めよう

公演タイトルは、3～5個の候補の中からみなさんの拍手の大きさに決定。
御校だけの特別な落語会タイトルを決定いたします。



【ワークショップ】ワークショップの様子。
タイトルは地名や名産品、学校の特徴などを基に、予め候補を出していただきます。



決定したタイトルの下で準備を進めていき、本公演当日に反映されていきます。



プロの寄席文字書家が
書いたタイトルののぼり
を影向舎が作成し、公演
当日に持参いたします。

【本公演】本公演当日、決定したタイトルが実際に形になった様子。
ポスターは見本の寄席文字を基にして、本公演までの間に生徒さんが作成。

まずは落語の世界を覗いてみよう

2. 落語を一席『寿限無 じゅげむ』など

分かり易い落語でお笑いを一つ。



落語を聞いた後は、落語の楽しみ方を知る

3. 落語鑑賞ポイント ～落語のあれこれ～

一人で何役も演じ、扇子と手ぬぐいを様々なものに見立てて、演じる側とお客さん（児童・生徒）それぞれが、想像しながら作り出す芸能“落語”。ここでは落語の特徴的なポイントについて解説します。ここを押さえれば落語がぐっと近づく。

左向いて「こんちわ！」



演一人で何役も
演じ分ける

右向いて「おやおや、よく来たね」



鑑賞
ポイント

1 落語の原点『小噺（落とし噺）』実演 と 作り方教室

小噺
・一人で何人もの登場人物を演じ分ける。
・必ず噺の最後にオチが有る。



長くなった
のが落語

Point
(創作)



本公演に向けての宿題、小ばなしを作ってみよう。その為の小ばなし作成のコツを伝授する、小ばなし作り方教室を開催。
⇒本公演当日の「大喜利コーナー」で優秀作品5作の作者には舞台上で発表してもらいます。

小ばなしの作り方のコツ
小ばなし創り方教室

本公演
大喜利コーナーに向けて

結果の部分であるオチを先に考えると作りやすいでしょう。

【オチの作り方】1つの言葉に複数の意味をもたせる。

例「このおかしやさん、繁盛しているんだって」
「けいき（景気／ケーキ）が良いもんね」

過去の子供たちの作品の一部をご紹介します ※実際に応募いただいた作品から抜粋

- 「ミミズとヘビどっちが好き？」「ミミズ！ミミズにはめがないんだ。」
- 「大人だけでボートにのると、どうなるの？」「きつと子がない（漕がない）から、進まないね。」
- 親「明日、台風だって。」子「台風はいいなあ、進路が決まっています。」
- 「まだ5月だというのに各地で夏日並みの暑さだね。梅雨をこえて一気に夏って感じだよ。」
「まるで置きっぱなしで忘れたカップラーメンのようだね。」「どういふこと？」
「ツユがみあたらない。」

落語
ポイント

2 落語のしぐさ『扇子・手ぬぐいの使い方』実演・体験

扇子と手ぬぐいという限られた小道具を「お箸」や「筆」、「帳面（ノート）」や「おいも」など様々なものに見立てて表現します。

Point
(体験)

扇子、手ぬぐいを各1,000セット用意。
持ち込みます。

⇒全員一緒に落語の仕草（そばを食べる仕草など）体験。
体育館中に響き渡る「そばをすすする音」は圧巻。

全員
体験

手ぬぐい × 1,000
扇子 セット
を利用して



全員一緒に体験できる！



落語のホーム、寄席。老舗の寄席を覗いてみよう

4. 動画『ようこそ寄席へ 老舗寄席・末広亭きご案内』



影向舎が新宿末広亭ご協力のもと、オリジナルで作成した特別動画

工夫point

古き良き寄席の雰囲気を残す末広亭で
オリジナル動画を作成いたしました。

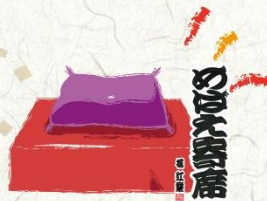
寄席って何？どんなところで何をしている？
普段見ることのできない裏側をナビゲート。

- ・客席、舞台（高座）、楽屋の様子
- ・前座さんのお仕事
- ・下座音楽（太鼓、三味線） など



寄席

落語を中心に様々な演芸が演じられる場所のこと。「よせ」と読みます。元々は「寄せ場」「人寄せ場」と呼ばれていました。江戸中期・寛政年間（18世紀末）に誕生し、幕末には江戸市中に数百件を数えましたが、現在は、東京と大阪などに「定席」（常設の寄席）が、年中ほぼ休みなく営業しています。寄席で演じられるのは落語だけではなく、講談、浪曲、曲芸、紙切り、手品、漫才、コントなど、バラエティーに富んだ番組（プログラム）になっています。前座（若手）の落語から始まり、紙切りや漫才などの色物と呼ばれる演芸と、二ツ目（中堅）の落語がテンポよく進んでいき、最後に真打ち（ベテラン）が登場します。



寄席を構成する上で大事な要素。プログラムの著休め的存在

5. 色物のおはなし



色物の代表的な芸種の高座の様子を動画で見ていただきます

工夫point

動きや見た目で楽しい芸。色物の解説。本公演出演者のご紹介。



紙切り



曲ごま



太神楽曲芸



漫才



ミュージック

色物

寄席で演じられる落語や講談、浪曲以外の演芸の総称。落語のような伝統芸とは一線を画し、それぞれが独自の得意芸をみ出す「一人一芸」の要素が強く、分かりやすく肩の張らない芸の数々は、寄席興行には欠かせない存在です。「落語や講談と区別するため、出番表に赤字で記した」「番組の彩りになるから」などが語源と言われる。※諸説あります

寄席を盛り上げるBGM、下座音楽をご紹介

6. 下座音楽のあれこれ【解説・実演】

寄席ではかかすことのできない下座音楽の解説。



Point (体験)

- ・太鼓が物を言う？入場時 一番太鼓は“ドン、ドン、ドントコイ” 終演の追い出し太鼓は“デテケ、デテケ、デテケ”
- ・出囃子=出演者のテーマソング。
- ・落語の効果音も太鼓で表現。「風」「川」「海」ってどんな音？

前座班、おはやし班になった代表の児童・生徒さんには公演終了後、本公演に向けて、太鼓や三味線のレクチャーをいたします。

下座(げざ)音楽

お囃子の三味線や太鼓など、寄席のBGM全般の総称。三味線・太鼓・笛・鉦(かね)などで構成されています。内容は演者が登場する際の入場BGM「出囃子」はもちろん、開場時や終演時に叩かれる、「一番太鼓」「二番太鼓」「追い出し太鼓」や、落語の囃子の中で、囃子の情景などを表し、盛り上げる「ハメモノ」、太神楽や紙切りの演目中のBGMなど、多岐にわたります。

クイズを楽しみながら、江戸時代を知ってもらう

7. お江戸クイズコーナー ～江戸時代へタイムスリップ～



プロジェクターを使用(影向舎オリジナルイラスト)

工夫point



1両は今のお金でいくら？



江戸時代の時間の感覚について



当時の職業(商い)について

落語の囃子の主な舞台である江戸時代。その時代の人はどんな暮らしをしていたのか？ また、江戸時代では、どんな職業があったのか？ お金や時間の囃子をクイズを交え、お話いたします。

よせもじ
読みづらい？寄席の世界の独特な“寄席文字”の秘密

8. 寄席文字を書いてみよう！【解説&実演】

解説・実演
橘紅楽（寄席文字書家）

寄席の世界で使われている寄席文字の書き方をお教えします。
文字の特徴や込められた意味を、書いている様子をライブカメラで投影しながら説明します。



Point (工夫)

寄席文字を書いている
ところがよく見えるよう、
手元を映したライブ
カメラでプロジェクター
投影いたします。

寄席文字

寄席の看板やポスター
（ビラ）などで使用さ
れる文字。寄席文字の
独特な形は、紙を寄席
に見立て、お客様が一
杯入場し、会場が頭で
黒々となるようにとの
願いを込めて、余白が
無いように書く。デザ
イン的要素が強い為、
一般的な書道では禁止
されている“二度書き”
も自由。

Point (体験)



ワークショップの時間の関係により、**全員参加（パターン①）**、
代表者が参加（パターン②）を選択できます。

《パターン①》全員参加 ※ワークショップ公演時間＋20分

全児童・生徒さんにご参加いただく、寄席文字教室。
普通の書道と異なる、特徴の有る書き方に挑戦してみよう。
○準備するもの：半紙、書道セット

《パターン②》代表児童・生徒 ※ワークショップ公演時間内
5名程度の代表の児童・生徒さんに寄席文字の書き方にチャレンジ
していただきます。
○書道セットなどはこちらでご用意いたします。

Point (創作)



本公演に向けての宿題、寄席文字でポスターを作ってみよう。
寄席文字の書き方のコツを伝授。
⇒本公演当日、皆さんに書いてもらったポスターは会場を飾り、
体育館中を華やかに彩ります。

おはやし班

↓ワークショップ終了後↓

プロがしっかりと教えます（おはやし班・前座班参加者対象）

公演後】三味線と太鼓のレクチャー

前座班・おはやし班に参加の児童・生徒さんにはワークショップ
終了後に、一番太鼓の叩き方やお囃子の演奏のレクチャーをいたします。



↓ワークショップから本公演までの間↓

本公演までの間の宿題 ワークショップで覚えたことをふまえて

※ご参加は自由です。授業などの関係でご参加が困難な場合はご相談ください。全てに参加されなくても、
一つだけの参加も可能です。

Point (創作)



○小ばなしの作成

作成いただいた作品の中から、優秀作を選定いたします。優秀作に選ばれた
6名の方には、本公演プログラム「大喜利コーナー」で発表をしてもらいます。

○ポスターの作成

作成いただいたポスターは、公演当日、会場内の児童・生徒さんに、飾り
付けてもらいます。

Point (体験)



○一番太鼓・お囃子の練習【前座班・おはやし班】

レクチャーを受けた内容を、本公演に向けて練習をしてもらいます。しっかり
と練習をして、公演当日は元気に演奏をしましょう。

タイムスケジュール（標準）

《午前実施(9 時開演)の場合》

舞台準備	7:30～8:45	(開演の1時間30分前)
客入れ(入場)	8:45～9:00	(開演の15分前)
ワークショップ	9:00～10:00	
片付け、打合せ	10:00～11:00	(終演後1時間程度)

《午後実施(13時30分開演)の場合》

舞台準備	12:00～13:15	(開演の1時間30分前)
客入れ(入場)	13:15～13:30	(開演の15分前)
ワークショップ	13:30～14:30	
片付け、打合せ	14:30～15:30	(終演後1時間程度)

※会場の構造により、片付け終了が遅くなる可能性があります。

派遣者数

出演者 4 名 [落語家 2 名 (若手落語家・前座)、三味線 1 名、寄席文字書家(橘流) 1 名]
スタッフ 2 名
計 6 名

学校における事前指導

(小ばなし作成)

ワークショップ終了後、公演日までの期間に、小ばなしの作品を募集いたします。小ばなしを作成いただき、お送りいただいた作品の中から優秀作品を選定させていただきます。優秀作作者の児童・生徒には、本公演の際に舞台上で発表してもらいます。

(ポスター作成)

ワークショップ終了後、公演日までの期間に、配布する寄席文字見本をもとにポスターの作成をしていただきます。

(一番太鼓のお稽古)

ワークショップ終了後、公演日までの期間に、入場時に叩く太鼓(一番太鼓)の録音内容を手本に、前座系の児童・生徒に本公演までに練習をしてもらい、公演当日は入場太鼓を叩いていただきます。

(出囃子演奏のお稽古)

ワークショップ終了後、公演日までの期間に、落語家が舞台へ登場する際の入場 BGM(＝出囃子)の録音内容を手本に、お囃子系の生徒に本公演までに練習をもらい、公演当日は入場太鼓を叩いていただきます。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 影向舎
公演団体名	めばえ寄席「〇〇亭」 ※〇〇は公募により決定。

演目



めばえ寄席 〇〇亭

本公演



プログラム

出演者：8～9名〔落語家5名（江戸・上方・若手・前座2名）、色物2～3名※、三味線1名〕
※色物出演者、内容により変動

時 間：95分《公演時間は児童・生徒さんの状況を見て調整します》

【仕込み】

「〇〇亭」劇場作り

みんなで体育館を“寄席”にしよう！
高座を作ったり、ポスターを貼ったり、
のぼりを飾ったり・・・
見慣れた体育館がどんどん、どんどん、
劇場になるワクワク感。
さあ、寄席の出来上がり！



開演までのにぎやかし

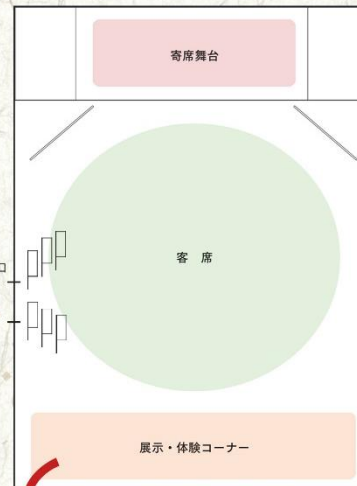
展示・体験コーナーで寄席の世界を120%
楽しもう！
体育館に寄席の展示・体験ができるエリアを
設置いたします。

【展示】

- ・老舗寄席「新宿末広亭」の写真を展示
- ・手ぬぐいを展示

【体験】

- ・ミニ高座を設置、児童・生徒さんのなりきり落語家体験
- ・下座楽器（三味線、太鼓、笛）を自由に触れる楽器体験コーナー



▲ 体育館内配置の一例



いつもの体育館が別世界。ワクワクドキドキの寄席空間が出現



【開場前】

開場準備（打合せ・お稽古）

会場班はお客様のお迎えについて、大喜利コーナー出演者は出演内容についての打合せ。前座班とおはやし班はワークショップの時に練習したことのおさらい（お稽古）をします。



【開場】

お客様を元気一杯お出迎え！

さあ寄席の開場です。
入口には寄席の番組表さながらの看板がお出迎え。
係のみんなでハッピーを着て、にぎやかにお客様をご案内しましょう。
舞台上では入場の合図「一番太鼓」を叩いてもらいます。
みんなが入場をしたらいよいよ開演！
まずは〇〇亭の席亭である校長先生よりご挨拶をいただきます。



会場班のお出迎え



前座班の一番太鼓



本物の寄席のように看板がお出迎えします

※
〇〇亭の席亭は、校長先生に先立ち、開演に先立ち、席亭よりご挨拶をいただきます。



開演前の席亭（校長先生）のごあいさつ

※席亭
寄席の経営者。席の亭主の略。

【開演】「〇〇亭」 いよいよ開演です！

開口一番

1. 落語（若手落語家）春風亭 柏枝 など〈10分〉

ようこそ寄席へ。まずはごくごく短い啻を

はじめての寄席体験。スタートが肝心。わかりやすい落語をひとつ。

おはやし班の児童・生徒さんには、公演開始のこのタイミングで囃子演奏に参加していただきます



おはやし班の演奏によって開演です。



2. 色物 林家 二楽《紙切り》など〈15分〉

リクエストを受けてその場で切り上げる、紙の芸術品

生徒さんの感想文で「感心した」「すごい」との声が一番多いのがこの紙切り。



神トリ

3. 上方落語 桂 文三 など〈15分〉

起源が辻噺（大道芸）、江戸落語とひと味違う賑やかな上方落語でお楽しみ

演目「刻うどん」「動物園」など。



お仲入り（休憩）〈10分〉

【休憩中】

休憩中も体験・参加！

○休憩中も展示や下座楽器をお楽しみください。

○舞台班の児童・生徒さんには、
その後の大喜利コーナーの
ステージ準備をお手伝いいただきます。



舞台班

【後半スタート】

児童・生徒 参加
体験

4. 大喜利 ～こばなしグランプリ（or しぐさ体験コーナー）～ 〈15分〉

お友達が落語家に！？大喜利スタイルで ずらりと並び発表会

それぞれの感性で創作してもらった作品の中から優秀作を6つ厳選。
優秀作に選ばれた児童・生徒さんが発表します。果たして結果はいかに？



※時間などの関係で事前の小断作成が難しい場合、しぐさ体験コーナーに変更することが可能です。



色とりどりの羽織をつけてステージに出演！

5. 色物 三増 紋之助《曲ごま》など〈15分〉

刀の刃や、長い棒の上で回るこま。

ハラハラ、楽しい

こまを縦横無尽に操る江戸曲ごま。見ていると幸せになる、
底抜けに明るい芸風が魅力。



トリ

6. 落語 春風亭 柳橋 など〈15分〉

いよいよトリです。看板真打ちによる
江戸古典落語でお楽しみ

演目「お菊の皿」「たぬき」など。

※トリの演者の落語のネタ（演目）は、子どもたちが
その後進学した際に、芸術鑑賞会などで落語を聞く機会が
有っても良いように、学校公演で演じられやすいポピュラー
なネタは逆に避けるように心がけております。



春風亭
柳橋

※1 出演者は色物の種類やご当地落語などのご希望や日程の関係で変更可能です。

※2 出演者はすべて、弊社の学校公演での経験と実績のある芸人で構成されています。

派遣者数
出演者:8～9名〔落語家5名（真打ち・二ツ目・前座）、色物2～3名、三味線1名〕 ※色物出演者内容によって変動 スタッフ:4名 合計:12～13名

タイムスケジュール（標準）
《午後実施(13時30分開演)の場合》 舞台準備 8:30～12:00 出演者到着 12:00 客入れ(入場) 13:15～13:30 公演 13:30～15:00 バラシ(片付け) 15:00～17:00 ※会場の構造により、片付け終了が遅くなる可能性があります。

実施校への協力依頼人員
なし



最後まで飽きることなく「たのしい」と思える寄席体験を！

工夫と特徴

Point! ① あなたの**学校**のオリジナル**落語会**！

「めばえ寄席 〇〇亭」はみんなで作る落語会。
タイトル「〇〇」の中はみなさんからの公募によって決定します。

Point! ② **劇場**をみんなでつくろう！

学校ごとにつくるオリジナルの寄席（劇場）。ワークショップで習った寄席文字でチラシを作成。作成したチラシは、のぼりや看板と共に会場を彩り、雰囲気を盛り上げます。



Point! ③ 児童、生徒が**裏方**に！**寄席**の運営に参加

当日は各担当に別れ、劇場を作り、運営をする色々な仕事をスタッフと一緒にを行います。
どんな班があるのでしょうか・・・

【前座班】 ※参加目安人数2名～4名

前座さんがする仕事を体験

※太鼓の演奏がある為、出来るだけ高学年でお願いします

○ 一番太鼓を叩く《お客さん（児童、生徒）の体育館入場時》



【おはやし班】 ※参加目安人数3名～5名

舞台を盛り上げる、お囃子演奏を体験

○ 開演時の出囃子を、プロと一緒に三味線、太鼓で演奏



【会場班】 ※参加目安人数2名～20名

よせ
寄席の客席を賑やかにする

○ 会場内の飾り付け（のぼりの飾りつけ、ポスター貼り）

○ 入場時のお客さん（児童、生徒）のお出迎えや、近隣の方のご来場の際の手作りチケットの"もぎり"や客席へのご案内

○ 開演前の諸注意のアナウンス



【舞台班】 ※参加目安人数2名～8名

ステージを作る裏方の仕事を体験

○ 高座の設営のお手伝い（のれん、めくり、座布団の設置）

○ 大喜利コーナーのセッティングのお手伝い



公演の前／後／休憩中

Point!

④ 展示・体験コーナーで公演時間外もお楽しみ

体育館に展示・体験コーナーを設けます。会場を賑やかし、雰囲気を盛り上げながら、ワークショップで学んだことを楽しみ、体験しながら思い出してもらうことができます。

【寄席体験市】実際に体験して分かる、楽しさ、難しさ

手ぬぐい、扇子を用意します。
見本のパネルを見ながらチャレンジ。

◎ミニ高座、落語体験ブース

誰でも体験できるよう、ミニ高座と手ぬぐい・扇子を設置。
自由に高座に上がって、ワークショップで教わった落語の仕草にチャレンジ。
仕草の見本として、噺家のお手本動画を再生いたします。
また併設するパネルには数種類の代表的な仕草のイラストを展示。
『扇子を箸に見立ててそばを食べる仕草』
『手ぬぐいを本に見立てて、本を読む仕草』などに挑戦してみよう。
若手落語家が立ち会いますので、仕草のアドバイスをいたします。



◎下座音楽ブース

下座音楽で仕様する楽器を用意します。自由に触れて、弾いて、叩いて、吹いてみてください。思ったよりも難しいことが分かります。

三味線3丁、太鼓3張、笛5本を用意します。



【寄席展示コーナー】普段見ることができない寄席の裏側・手ぬぐいの展示

◎寄席（新宿末広亭）の紹介写真展

現存するなかでは最も古い木造建築の寄席「新宿末広亭」。
新宿末広亭ご協力のもと、
めばえ寄席の為に撮りおろした写真を展示。
その入り口から楽屋まで解説文を交えてご紹介いたします。
通常見ることができない、舞台の裏側や楽屋を覗いてみよう。



◎噺家手ぬぐい展

落語家さんの手ぬぐいを展示。
個人によって、様々な趣向（柄や絵）が
凝らされていて観ているだけでも面白いものです。



Point!

⑤ 雰囲気たっぷりの本格的な寄席舞台を設営



子供達を見る気に、出演者をやる気にさせる、本格的な寄席舞台を体育館に設営。
音響は落語用に特別チューニングされたマイク、スピーカー等を使用。
また、持ち込みの照明で舞台を照らします。



Point!

⑥ 「めばえ寄席」プログラムの3つの要素

一. 【江戸落語と上方落語】

落語には江戸（東京）落語と上方（大阪）落語があります。言い回し、雰囲気など、特色が異なる落語を組み合わせることにより、プログラムに変化を与え、楽しんでいただくことができます。

二. 【色物が2題】

子供達に人気の色物2題を構成。それぞれ違うタイプの演目で構成し、最後まで飽きずに鑑賞していただくことができます。

※色物とは寄席において落語と講談以外の芸を指します。寄席の看板で、落語、講談の演目は黒文字で書かれていたのに対して、それ以外は色文字（主として朱色）で書かれていたのが、この言葉の起源といわれています。
※諸説あります。

三. 【スピーディーなプログラム展開】

プログラムの一つ一つの時間を短く設定してありますので、内容が次から次へと変わっていき、最後まで飽きずに鑑賞することができます。

四. 【体験要素 ～大喜利コーナー～】

休憩の後に子供達に参加していただく余興を構成。「大喜利」方式の“こばなしグランプリ”。ワークショップで作成のコツを伝授いたしますので、本公演までの間に作品を作り、お送りください。春風亭柳橋を委員長とした審査委員が5作品を選出いたします。エントリー（選出）されたお子さんは羽織を着て、落語家さながらに舞台上で作成をしたこばなしの発表をしてもらいます。

江戸落語と上方落語

東京を中心に発展した江戸落語は商家や武家の座敷に呼ばれて演じるという「座敷噺」の形で発達したため、じっくりと聴かせる噺が多く、大阪など関西圏を中心に発展した上方落語は盛り場の辻で、行き交う人呼び止めて演じた「辻噺」を起源とするため、にぎやかな噺が中心になります。上方落語は演目も派手で、演者の前に見台や膝隠しなどの道具を置き、小拍子や叩きながら演じることもあります。

Point!

⑦ 経験や実施校からのご意見に基づく改善ポイント

我々影向舎は、寄席関係の青少年向け公演事業において業界No.1の実績を誇ります。年間250ステージを超える高等学校向けの「学校寄席」や、平成26年より述べ143回実施をしてきた小中学校対象の「めばえ寄席」で培ってきた経験や知識に基づき、実施校のご希望や状況に合わせて、1公演毎でできる限りの改善に努め、プログラム内容を充実させてまいりました。令和4年度においても、公演後に学校様からお聞きしたご意見や、現場での経験を加味し、下記4つのポイントの改善を行っています。

① 体験・参加要素は割愛することができます。（事前アンケートを実施いたします）

「めばえ寄席」はより効果的な芸術体験を目的に、様々な体験・参加要素を盛り込んでおりますが、学校毎に時間的余裕の有無や、鑑賞会への取り組みの温度差がありました。

そこで・・・ → それぞれの事情を考慮し、体験・参加要素は割愛することが可能です。
ご希望を反映する為、事前に参加の有無についてのアンケートを実施いたします。

- ・ポスターやこばなしなどの事前の作成物や、本公演当日の班参加などは割愛可能です。
- ・本公演当日の展示・体験コーナーの観覧タイミングはいつでも可能です。
- その為、開演前の入場開始時間や、プログラム途中の休憩時間、終演後の時間は通常設定時間より長くすることが可能です。
- 逆に展示や体験などを全く行わずに割愛することも可能です。

② 各校に合わせた柔軟な番組構成をいたします。

ワークショップ・本公演共に、基本的な進行内容がありますが、人数が20名と500名の学校で舞台設定や参加人数などを全く同じ内容で行うと、無理が生じることが分かりました。

そこで・・・ → 実施校の希望を取り入れつつも、プログラムの趣旨を崩さずに柔軟な番組構成をいたします。

③ 小・中学校でアプローチを変えました。

参加いただく班の仕事内容について、小学生と中学生また、小学校低学年と高学年ではできることや、やっていて楽しく感じる内容が違うことが分かりました。

そこで・・・ → より意義の有る参加内容とする為、その経験を踏まえ、小・中学校でアプローチを変えました。

- 【会場班】小学生：にぎやかに大きな声でお出迎え など / 中学生：お客様の席への誘導 など
- 【舞台班】小学生：高座の座布団の配置 など / 中学生：より本格的なお手伝い
- 【おはやし班】小学校低学年、高学年、中学生、三味線経験者などの条件によって、難易度を変える

④ 公演までの道しるべ「手引書」を充実させていきます。

学校側で行う準備、打合せや公演までの段取りが事前に分かるようにして欲しいという声を受け、実施校へ公演までの手引書をお配りしております。フィードバックシートでは「分かりやすかった」などの評価をいただいておりますが、今後もご担当の先生にとっての道しるべとして、より充実したものになるよう、内容をブラッシュアップし続けていきます。





⑧ 企画内容について

平成30年度から令和元年度にかけて、新たに『おはやし班』という参加要素を加え、実施をしています。普段触る機会の無い三味線や太鼓に臆することなく、また邦楽器経験者の子供たちは殊更堂々と、演奏を行うことができました。参加した児童・生徒はもちろん、学校の先生方からの反応も好評で、今後も継続をいたします。おはやし班を数年実施して気付いたこととして、学年や経験の有無で対応できる内容が大きく違うことが分かりました。今までは演奏する曲（出囃子）は1つの曲を固定しておりましたが、今後はこどもたちにより高い充実感を感じてもらう為、学校毎の状況により、演奏する曲を変えて行ってまいります。

平成26年度の初参加より早7年。「めばえ寄席」は希望調書に記載している通り、参加内容や鑑賞内容の密度の濃さ、また事前の準備から当日の運営にかけてのスムーズさなど、学校向けの寄席プログラムとして理想的な形に仕上がってきました。

今後もより一層楽しんでいただけるように、またその楽しみの中で、『寄席演芸』という日本の芸能の素晴らしさを発見してもらえるよう、私たちはこの番組を更に充実したものにしていきます。そこで令和4年度にかけては令和3年度に続き、プログラムをより良いものにする為、前年度内容を踏襲しながらも、一つ一つの精度を上げることに努めます。

『めばえ寄席』企画内容改善の履歴

平成26年度	巡回公演事業参加スタート
平成27年度	展示・体験コーナーを開設
平成28年度	展示・体験コーナーの充実 (楽器に触れる「下座音楽ブース」を追加)
平成29年度	会場入口にプログラム看板を設置 小学校・中学校での体験レベルの変更
平成30年度	手引書など学校配布資料の充実
令和元年度	「おはやし班」を新設
令和2年度 ～3年度	本公演での落語演目（ネタ）の工夫 WS内容の見直し

NEW!



児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

<ワークショップ>

※「ワークショップ項目」をご参照ください。

<公演までの間>

○作り方教室で学んだ「小噺」の作成。落語の元となる「小噺」を作ってみよう。

☆作成していただいた小噺は公演前に送付していただき、優秀作品を選考します。

こばなしグランプリで、代表生徒さん5名に小噺の発表をしていただきます。

○「寄席文字」でビラ(チラシ)を作ってみよう。

☆ワークショップ時に寄席文字書家が書き方のコツを伝授。実演を交えて書き方を教えます。

その後本公演までに寄席文字チラシを生徒さんに作成していただきます。作成枚数は規定しません。個人・学年・クラス毎などでまとめていただき、本公演当日に会場に貼りだします。

<本公演>

※「演目」「演目概要」をご参照ください。

児童生徒とのふれあい

過去の実績ノウハウを生かして、様々な工夫を凝らしています。

様々な角度から落語を体験……

「見る・聴く」に加えて「体験」をしていただく為、以下の様な要素を盛り込んでいます。

・運営スタッフとしても参加。

(高座をつくる・会場を飾る・看板を書く・案内をする・太鼓をたたく・三味線を弾く など)

これは当事業以外の学校公演ではなかなかできない貴重な要素です。

・教材の工夫

ワークショップの内容を忘れない為の教材

○寄席文字五十音字の見本

○一番太鼓・出囃子の録音内容配布